

福島県市町村特定原子力施設地域振興事業補助金
（広域的減容化施設影響緩和事業分）
事業進捗状況書

1 事業者

住 所 伊達市保原町字舟橋 180 番地
事業者名 伊達市
代表者の氏名 伊達市長 須田 博行

2 事業実施期間

着手 令和 4 年 4 月 1 日
完了 令和 5 年 3 月 31 日

3 事業概要

事業名	霊山山頂バイオトイレ整備事業
事業実施場所	伊達市霊山町石田地内
事業内容	バイオトイレの整備（霊山城跡）
事業を実施する理由 （課題・背景等）	伊達市霊山町石田地区は、過疎地域の指定を受けている旧霊山町内に位置しており、人口の自然減及び社会減並びに地区住民の高齢化が加速度的に進行している。これに加え、震災後、福島第一原発事故関連の風評により、地区の観光資源である霊山への登山を初めとした観光客が減少したことで、当該地域の活力は著しく衰退してしまった。 霊山及び周辺施設（霊山こどもの村等）への訪問者の減少は平成 23 年度に底打ちとなり、回復傾向にあるものの震災以前の水準には戻っていない。 しかしながら、相馬福島道路の開通や道の駅伊達の郷りょうぜんの整備により、新たな人の流れが生まれ始めており、これらを活用しながら地域の観光地へと周遊を促すことで、風評払拭及び地域活性化につなげることが可能である。 観光の軸となる名峰霊山の整備によって、男女問わず、幅広い年齢層の登山客が訪れやすい環境を整え、観光誘客増加を図る
事業の目標	伊達市のシンボルである霊山にはハイキングコースが整備されており、初夏から晩秋にかけて多くの登山客が訪れている。しかし、山頂付近の霊山城跡のトイレは改築から約 30 年経過しており、老朽化や汚れが酷い状況にある。 バイオトイレを新たに設置することで、男女問わず、幅広い年齢層の

	登山客が利用しやすい環境を整備し、登山客の増加を目指す。
事業実施により期待される効果 (直接効果及び中長期的効果)	1 直接的効果 (1) 山頂付近にある休憩地点のトイレが新しくなることで、女性やファミリー層の登山客増加が見込まれ、霊山地域の交流人口増加に寄与する。 (2) トイレは車両が侵入できない場所にあるため、排泄物の汲み取り及び搬出は人力で行われており、作業負担が大きく、請負業者確保が課題であったが、汲み取り不要となることで、課題解決に寄与する。 (3) バイオトイレに変更することで、排泄物が微生物の働きで分解・減容されるため、環境負荷軽減に寄与する。 2 中長期的効果 (1) 霊山界限には、霊山こどもの村、りょうぜん紅彩館、道の駅伊達の郷りょうぜん等の観光施設があるため、登山客等の周遊による地域活性化が見込まれる。 (2) 交流人口増加により、風評払拭へつながる。

4 個別事業進捗状況

実施時期	実施内容・進捗状況	今後の展開
令和4年度	既存トイレ解体設計、バイオトイレ新設設計が完了した。既存トイレ解体及びバイオトイレ新設工事に着手した。	観光の軸となる名峰霊山のトイレを整備することで、男女問わず、幅広い年齢層の登山客が訪れやすい環境を整え、観光誘客増加を図る。

5 事業全体の進捗状況等

事業全体としての進捗状況	令和4年度に工事完了予定だったが、材料の不足により令和5年度に事業を繰越す。
事業実施による効果 (直接効果)	事業概要内、事業実施により期待される効果のとおり。
今後の展開	霊山の既存の汲み取りトイレを解体・新たにトイレを設置することで、幅広い年齢層の登山客が訪れやすくし、観光誘客の増加及び地域の活性化を図る。また、新たにバイオトイレを設置することで、環境負荷軽減に寄与する。

注 用紙の大きさは、A列4番とする。

福島県市町村特定原子力施設地域振興事業補助金
（広域的減容化施設影響緩和事業分）
事業進捗状況書

1 事業者

住 所 伊達市保原町字舟橋 180 番地
事業者名 伊達市
代表者の氏名 伊達市長 須田 博行

2 事業実施期間

着手 令和 4 年 9 月 21 日
完了 令和 5 年 3 月 31 日

3 事業概要

事業名	霊山こどもの村施設整備事業
事業実施場所	伊達市霊山町石田地内
事業内容	霊山こどもの村施設整備
事業を実施する理由 （課題・背景等）	伊達市霊山町石田地区は、過疎地域の指定を受けている旧霊山町内に位置しており、人口の自然減及び社会減並びに地区住民の高齢化が加速度的に進行している。これに加え、震災後、福島第一原発事故関連の風評により、地区の観光資源であり、市民の憩いの場である「りょうぜんこどもの村」の利用客が激減したことで、当該地域及び市全体の活力が著しく衰退してしまった。 「りょうぜんこどもの村」等への観光客の減少は、平成 23 年度に底打ちとなり、徐々に回復傾向にあるものの震災以前の水準には戻っていない。 しかしながら、相馬福島道路の開通や「道の駅伊達の郷りょうぜん」の整備により、新たな人の流れが生まれ始めており、これらを活用しながら地域の観光地へと周遊を促すことで、風評払拭及び地域活性化につなげることが可能である。 地区の観光資源であり、市民の憩いの場である「りょうぜんこどもの村」を整備し、施設の魅力を再創出することによって、幅広い年齢層の観光客や市民が訪れやすい環境を整え、利用客増加を図る。
事業の目標	伊達市の主要観光地の一つである「りょうぜんこどもの村」には、遊具をはじめ、コテージやキャンプ場等が整備されている。

	しかし、開園から 50 年が経過していることもあり、施設の多くが現在の利用者のニーズに対応していない施設が多い。したがって、施設を現在の利用ニーズに対応する整備を実施することで、利用客が利用しやすい環境を整備し、利用客の増加を目指す。
事業実施により期待される効果 (直接効果及び中長期的効果)	1 直接的効果 (1) 既存コテージにエアコン及び屋根付きウッドデッキを設置することにより、一年を通して快適に過ごすことができるとともに、雨天時において、屋外活動の代替え活動が屋内で可能となることで、利便性が向上し、交流人口増加に寄与する。 (2) 既存キャンプ場の区画を再整備し、キャンプサイトへ車での直接の乗入れが可能な区画とすることで、利用者の利便性を図り、新たな交流人口増加に寄与する。 (3) 老朽化・破損個所のある遊具等を撤去することで、事故を未然に防止し、利用者の安全を確保するとともに施設全体の景観保持により、利用者の増加に寄与する。 2 中長期的効果 (1) 霊山界限には、霊山、りょうぜん紅彩館、道の駅 伊達の郷りょうぜん等の観光施設があるため、観光客等の周遊による地域活性化が見込まれる。 (2) 交流人口増加により、風評払拭へつながる。

4 個別事業進捗状況

実施時期	実施内容・進捗状況	今後の展開
令和 4 年度	こどもの村施設整備測量設計業務委託、こどもの村整備設計業務委託、コテージ・エアコン設計工事業務委託、既存施設撤去設計業務委託、施設整備工事、コテージ改修工事、エアコン設置工事、撤去工事が完了した。	施設の整備により、季節や天候を問わず利用できることにより、交流人口増加に寄与する。

5 事業全体の進捗状況等

事業全体としての進捗状況	令和 4 年度末までに予定していた整備事業は完了した
事業実施による効果 (直接効果)	事業概要内、事業実施により期待される効果のとおり。
今後の展開	こどもの村の既存施設を整備することで、利便性を向上させ、地区内外から人を呼び寄せ、地域の活性化を図る。既存キャンプ場の区画を再整備し、キ

	キャンプサイトへ車で直接の乗入れが可能な区画とすることで、利用者の利便性を図り、新たな交流人口増加に寄与する。
--	---

注 用紙の大きさは、A列4番とする。